

医 02 縫合糸

33961003 単回使用クラスⅢ処置キット

高度管理医療機器

鏡視下キット

再使用禁止

【警告】

◆205801 電気メスペンシル

＜使用方法＞

1. 火災の危険

酸素(O₂)及び亜酸化窒素(N₂O)は燃焼支援ガスである。酸素、亜酸化窒素の濃度が高い環境での使用を避けること [火災の発生、あるいは患者や手術スタッフが燃焼を負う可能性がある]。

2. 火災/爆発の危険

・以下の物質は、手術室での火災や爆発の危険性を助長する要因となる可能性がある。

- ・可燃性物質（アルコール性皮膚消毒剤およびチンキ類）
- ・腸管等の体腔に蓄積して自然に生じる可燃性ガス
- ・高酸素濃度の作動環境
- ・酸化剤（亜酸化窒素（N₂O）を含む空気等）

・電気外科手術に伴う火花放電（スパーク）や熱が発火源となることがあるので常に火災の予防措置をとること。

ガスや可燃性の物質が存在する環境下で電気外科手術を行なう際は、外科用ドレープの下や電気外科手術が行なわれる部位にこれらのガスや可燃性物質が蓄積したり、溜まったりすることのないように注意すること。

3. 火災/爆発の危険

手術前および手術中は、全ての酸素回路の接続部に漏れがないことを確認し、気管内チューブの酸素漏れを防ぐカフが適切にシールされていることを確認すること。[高酸素濃度の作動環境による火災の発生や、患者や手術スタッフが熱傷を負う可能性があるため]。

4. 手術用の電極コードを患者または他の導線に接触させないように置くこと。

5. アクセサリを使用しない時は、ホルスターに収納するか、または清潔で乾燥した絶縁性の確認可能な、患者に接触しない場所に置くこと。[誤って接触すると患者や手術スタッフが熱傷する可能性があるため。]

6. 電極の取り付け又は取り外しの際は、ハンドセットが電気手術器本体に接続されていないこと、もしくは電気手術器本体の電源がOFF又はスタンバイモード(設定可能な場合)であることを確認すること。

7. 手術前、電気手術器本体の設定が適切かどうか確認すること。必要な効果を得るのに必要な最も低い出力設定で使用する。

8. 術者によっては、外科手術中に「止血鉗子をバジング」するが、これは推奨できない。[術者が手を熱傷する可能性があるため。] 術者の損傷の可能性を最小限に抑えるため、以下の予防処置を行うこと。

(1) 止血鉗子をバジングする際に、患者、テーブル又は開創部に寄りかからないこと。

(2) 切開の方がより低電圧のためコアギュレーション(凝固)ではなく、切開を用いること。

(3) できるだけ低い出力設定で止血に必要な最小限な時間だけ使用すること。

(4) アクセサリが止血鉗子に触れてから、電気手術器本体を動作させ、止血鉗子にアークが生じないようにすること。

(5) できるだけ止血鉗子を大きくしっかりと掴んでから、電気手術器本体を動作させること。電流を広範囲な部位に分散し、電流が指先へ集中するのを最小限に抑えること。

(6) 手の高さより下(可能な限り患者に近い位置)で「止血鉗子をバ

ジング」して、電流が術者の手を通して別経路に流れるのを可能な限り軽減すること。

9. ステンレススチールのブレード電極を使用する場合、平らな面を止血鉗子、又は他の金属器具に当てて使用すること。

10. コーティングされた電極又はノンスティック(汚れが着かない)ブレード電極を使用する際は、電極のエッジ部分を止血鉗子、又は他の金属器具に当てること。

◆205802 電気メスペンシル

＜使用方法＞

1. 作動中のアクセサリや外科手術用ペンシルは、ガーゼや外科用ドレープ等の可燃性物質の付近やそれらに接触させて置かず、ホルスターに収納し患者や手術スタッフ及び外科用ドレープから離して安全に置くこと [作動中もしくは使用直後で熱を持った電気手術用アクセサリにより、火災が発生する可能性があるため]。

2. 火災/爆発の危険

・以下の物質は、手術室での火災や爆発の危険性を助長する要因となる可能性があるので注意すること。

- i) アルコール性皮膚消毒剤およびチンキ類
- ii) 腸管等の体腔に蓄積して自然に生じる可燃性ガス
- iii) 高酸素濃度の作動環境
- iv) 酸化剤（亜酸化窒素（N₂O）を含む空気等）

・電気外科手術に伴う火花放電（スパーク）や熱が発火源になる可能性があるので常に火災の予防措置をとること。

電気外科手術に伴う火花放電（スパーク）や熱が発火源になる可能性があるので常に火災の予防措置をとること。ガスや可燃性の物質が存在する環境下で電気外科手術を行う際は、外科用ドレープの下や電気外科手術が行われる部位にこれらのガスや可燃性物質が蓄積したり、溜まったりすることのないように注意すること。

3. 火災/爆発の危険

手術前及び手術中は、すべての酸素回路の接続部に漏れがないことを確認し、気管内チューブの酸素漏れを防ぐカフが適切にシールされていることを確認すること [高酸素濃度の作動環境による火災の発生や、患者や手術スタッフが熱傷を負う可能性があるため]。

4. アクセサリを使用しない時は、ホルスターに収納するか、又は清潔で乾燥した絶縁性の、患者に接触しない目立つ場所に置くこと [誤って接触すると患者が熱傷を負う可能性があるため]。

5. 手術前に、電気手術器本体の出力設定値が適切かどうか確認すること。必要な効果を得るのに必要な最も低い出力設定で使用する。

6. 手術用の電極ケーブルを患者又は他の導線に接触させないように置くこと。

7. 術者によっては、外科手術中に「止血鉗子をバジング」するが、これは推奨できない [術者が手を熱傷する可能性があるため]。術者の熱傷の可能性を最小限に抑えるため、以下の予防措置を行うこと。

(1) 止血鉗子をバジングする際に、患者、テーブル又は開創部に寄りかからないこと。

(2) 切開の方がより低電圧のためコアギュレーション(凝固)ではなく、切開を用いること。

(3) できるだけ低い出力設定で止血に必要な最小限な時間だけ使用すること。

(4) アクセサリが止血鉗子に触れてから、電気手術器本体を動作させ、止血鉗子にアークが生じないようにすること。

(5) できるだけ止血鉗子を大きくしっかりと掴んでから、電気手術器本体を動作させること。電流を広範囲な部位に分散し、電流が指先へ

取扱説明書を必ずご参照ください。



XXXXXXXXXXXXXXXX

集中するのを最小限に抑えること。

(6) 手の高さより下(可能な限り患者に近い位置)で「止血鉗子をバジング」して、電流が術者の手を通して別経路に流れるのを可能な限り軽減すること。

(7) ステンレススチールのプレート電極を使用する場合、平らな面を止血鉗子、又は他の金属器具に当てて使用すること。

(8) コーティングされた電極又はノンスティック(汚れが着かない)プレート電極を使用する際は、電極のエッジ部分を止血鉗子、又は他の金属器具に当てること。

◆205803 電気メス電極

1. 以下の物質の存在するところでは本品を使用しないこと [爆発・火災の可能性があるため]。

- ・高濃度酸素
- ・亜酸化窒素(N₂O)のような酸化剤

手術前及び手術中は、すべての麻酔回路の接続部に漏れがないことを確認すること。

気管内チューブに漏れがないこと、酸素漏れがないようカフで適切にシールされていることを確認すること。

可能ならば電気手術を行う前の少なくとも 1 分間、及び電気手術中は追加の酸素供給を行わないこと。

- ・アルコール性皮膚消毒剤及びチンキ類

皮膚消毒剤やチンキからの蒸気が消えてから出力を行うこと。

- ・腸内など体腔内に蓄積する可能性のある自然に生じる可燃性ガス

2. 電気手術で起こるスパークや熱が発火源になる可能性がある。常に火災の予防を行うこと。

・ガスや可燃性物質のある場所で手術を行う場合は、手術用ドレープの下や手術部位近くに液体を留まらせたり、ガスを蓄積させないこと。手術前にドレープをつまんで引き上げ、蒸気が室内空気と混ざるようにすること。

・電極はきれいに、かすがない状態にしておくこと [電極先端のエシヤーは、特に高濃度の酸素のある環境で火災の危険が高まる。熱が高いとエシヤーは残り火となり、発火源あるいは燃料として火災の原因となるため]。

・顔や他の部位の体毛は可燃性である。可燃性を減少させるために、水溶性の潤滑ゼリーで手術部位の近くの体毛をカバーしてもよい。

◆205804 電気メス電極

1. 以下の物質の存在するところでは本品を使用しないこと [爆発・火災の可能性があるため]。

- ・高濃度酸素
- ・亜酸化窒素(N₂O)のような酸化剤

手術前及び手術中は、すべての麻酔回路の接続部に漏れがないことを確認すること。

気管内チューブに漏れがないこと、酸素漏れがないようカフで適切にシールされていることを確認すること。

可能ならば電気手術を行う前の少なくとも 1 分間、及び電気手術中は追加の酸素供給を行わないこと。

- ・アルコール性皮膚消毒剤及びチンキ類

皮膚消毒剤やチンキからの蒸気が消えてから出力を行うこと。

- ・腸内など体腔内に蓄積する可能性のある自然に生じる可燃性ガス

2. 電気手術で起こるスパークや熱が発火源になる可能性がある。常に火災の予防を行うこと。

・ガスや可燃性物質のある場所で手術を行う場合は、手術用ドレープの下や手術部位近くに液体を留まらせたり、ガスを蓄積させないこと。手術前にドレープをつまんで引き上げ、蒸気が室内空気と混ざるようにすること。

・電極はきれいに、かすがない状態にしておくこと [電極先端のエシヤーは、特に高濃度の酸素のある環境で火災の危険が高まる。熱が高いとエシヤーは残り火となり、発火源あるいは燃料として火災の原因となるため]。

・顔や他の部位の体毛は可燃性である。可燃性を減少させるために、水溶性の潤滑ゼリーで手術部位の近くの体毛をカバーしてもよい。

◆205806 電気メス用コード

<使用方法>

1. アクセサリ類は適切な接続端子に接続すること [予期せずアクセサリの作動や、又は他の潜在的な危険が生じる可能性があるため]。

◆205808 電気メス電極

1. 以下の物質の存在するところでは本品を使用しないこと [爆発・火災の可能性があるため]。

- ・高濃度酸素
- ・亜酸化窒素(N₂O)のような酸化剤

手術前及び手術中は、すべての麻酔回路の接続部に漏れがないことを確認すること。

気管内チューブに漏れがないこと、酸素漏れがないようカフで適切にシールされていることを確認すること。

可能ならば電気手術を行う前の少なくとも 1 分間、及び電気手術中は追加の酸素供給を行わないこと。

- ・アルコール性皮膚消毒剤及びチンキ類

皮膚消毒剤やチンキからの蒸気が消えてから出力を行うこと。

- ・腸内など体腔内に蓄積する可能性のある自然に生じる可燃性ガス

2. 電気手術で起こるスパークや熱が発火源になる可能性がある。常に火災の予防を行うこと。

・ガスや可燃性物質のある場所で手術を行う場合は、手術用ドレープの下や手術部位近くに液体を留まらせたり、ガスを蓄積させないこと。手術前にドレープをつまんで引き上げ、蒸気が室内空気と混ざるようにすること。

・電極はきれいに、かすがない状態にしておくこと [電極先端のエシヤーは、特に高濃度の酸素のある環境で火災の危険が高まる。熱が高いとエシヤーは残り火となり、発火源あるいは燃料として火災の原因となるため]。

・顔や他の部位の体毛は可燃性である。可燃性を減少させるために、水溶性の潤滑ゼリーで手術部位の近くの体毛をカバーしてもよい。

◆210500 ポリエステル縫合糸

・縫合糸が尿管や胆管内の塩類と長時間接触すると結石が形成されることがあるので注意すること。

・汚染あるいは感染した創傷部位に使用する場合は、適切な外科的処置を行なうこと。[創傷部位が感染する可能性があるため。]

◆210600 ポリアミド縫合糸

・縫合糸が尿管や胆管内の塩類と長時間接触すると結石が形成されることがあるので注意すること。

・汚染あるいは感染した創傷部位に使用する場合は、適切な外科的処置を行なうこと。[創傷部位が感染する可能性があるため。]

◆210700 絹製縫合糸

・縫合糸が尿管や胆管内の塩類と長時間接触すると結石が形成されることがあるので注意すること。

・汚染あるいは感染した創傷部位に使用する場合は、創部の洗浄等の適切な外科処置を行うこと。[創傷部位が感染する可能性があるため]

◆211100 ポリアミド縫合糸

・縫合糸が尿管や胆管内の塩類と長時間接触すると結石が形成されることがあるので注意すること。

・汚染あるいは感染した創傷部位に使用する場合は、創部の洗浄等の適切な外科処置を行うこと。[創傷部位が感染する可能性があるため]

◆211300 ポリエステル縫合糸

・縫合糸が尿管や胆管内の塩類と長時間接触すると結石が形成されることがあるので注意すること。

・汚染あるいは感染した創傷部位に使用する場合は、創部の洗浄等の適切な外科処置を行うこと。[創傷部位が感染する可能性があるため]

◆251700 電気メスクリーナー

・本品又は破損部が体内に脱落したときは、すぐに回収すること。[体内遺残の恐れがあるため。]

*◆270200 麻酔回路セット (未滅菌)

*・使用前に本品の接続に誤りがないか、使用前及び使用中に各接続部が気密かつ確実であり、漏れや閉塞がないことを確認すること。[予期せぬ脱落の危険を防ぐため。また、正常な流量が供給されない危険性があるため。]

*・分泌物が溜まった場合は、直ちに新しいものと交換すること。[流量抵抗の上昇、あるいは閉塞により換気が行えない恐れがあるため。また、人工呼吸器との併用においては、本品に外れが生じた場合、低圧警報が作動しない恐れがあるため。]

*・サンプリングポートには、サンプリングチューブ以外のチューブ類 (例: ガス供給チューブ) を接続しないこと。[患者に危険が及ぶ可能性があるため。]

*・CO₂ モニタリングを行わない場合は、使用前にサンプリングポートがキャップによって閉塞されていることを確認すること。[リーク

により、呼吸に障害が生じる可能性があるため。]

【禁忌・禁止】

・再使用禁止

◆202400 絹糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆202500 絹糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆202600 針付絹糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆202800 ナイロン糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆205801 電気メスペンシル

＜適用対象（患者）＞

・本品の電極に対する感作やアレルギー反応を示す可能性のある患者への適用禁止。[ニッケル、クロムを含むため。]

＜使用方法＞

1.火災の危険

・アクセサリ類を、可燃性物質（ガーゼや外科用ドレープ等）、可燃性ガスおよび高圧酸素容器の近くに置いたり、接触させたりしないこと。[作動中もしくは使用により熱を帯びているアクセサリにより、火災が発生する可能性があるため。] 作動中のアクセサリを使用しない時は、ホルスターに収納するか、又は清潔で乾燥した絶縁性の、患者に接触しない目立つ場所に置くこと [誤って接触すると患者が熱傷を負う可能性があるため。]

2.可燃性の麻酔剤が存在する場所での電気手術器本体の使用禁止。[爆発する可能性があるため。]

◆205802 電気メスペンシル

＜適用対象（患者）＞

・本品の電極に対する感作やアレルギー反応を示す可能性のある患者への適用禁止。[ニッケル・クロムを含むため。]

＜使用方法＞

・可燃性の麻酔剤が存在する場所での電気手術器本体の使用禁止。[爆発および火災が発生する可能性があるため。]

◆205803 電気メス電極

＜適用対象（患者）＞

・本品の電極に対する感作やアレルギーを示す可能性のある患者。[ニッケル・クロムを含むため。]

◆205804 電気メス電極

＜適用対象（患者）＞

・本品の電極に対する感作やアレルギーを示す可能性のある患者。[ニッケル・クロムを含むため。]

◆205808 電気メス電極

＜適用対象（患者）＞

・本品の電極に対する感作やアレルギーを示す可能性のある患者。[ニッケル・クロムを含むため。]

◆207700 外科用メス

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆208000 メス替刀

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆209300 針セット

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆209500 スキンステープラー

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作またはアレルギーを示す患者 [ニッケル、クロムを含むため。]

◆209501 スキンステープラー

＜適用対象（患者）＞

・本品のステープルに対する感作又はアレルギーを示す可能性のある患者 [ニッケル、クロムを含むため。]

◆209700 絹糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。 1)『取扱説明書「絹糸」【主要文献及び文献請求先】項、1)を参照。』

＜使用方法＞

・本品は非吸収性であるが、生体内では長期の分解が進み徐々に抗張力が低下するので、長期に抗張力を必要とする部位には使用しないこと。 2)『取扱説明書「絹糸」【主要文献及び文献請求先】項、2)を参照。』

◆209800 ナイロン糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆210500 ポリエステル縫合糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又は金属アレルギーを示す患者には使用しないこと。[本構成品取扱説明書【形状・構造及び原理等】2 参照]

◆210600 ポリアミド縫合糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又は金属アレルギーを示す患者には使用しないこと。[本構成品取扱説明書【形状・構造及び原理等】2 参照]

・ナイロン製縫合糸は、生体内で徐々に抗張力が失われるため、恒久的に抗張力の保持が要求される部位へは使用しないこと。

◆210700 絹製縫合糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又は金属アレルギーを示す患者には使用しないこと。[本構成品取扱説明書【形状・構造及び原理等】2 参照]

・本品は、生体内で徐々に抗張力が失われるため、恒久的に抗張力の保持が要求される部位への使用はしないこと。

◆211100 ポリアミド縫合糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又は金属アレルギーを示す患者には使用しないこと。[本構成品取扱説明書【形状・構造及び原理等】2 参照]

・ナイロン縫合糸は、生体内で徐々に抗張力が失われるため、恒久的に抗張力の保持が要求される部位へは使用しないこと。

◆211300 ポリエステル縫合糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又は金属アレルギーを示す患者には使用しないこと。[本構成品取扱説明書【形状・構造及び原理等】2 参照]

◆212202 麻酔針

・脊麻針を穿刺する際は、必ずスタイレットを正しい位置にはめて使用すること。[組織片がくも膜下腔に入る恐れがあるため。]

＜適用対象（患者）＞

・脊髄くも膜下麻酔について一般的に知られている次のような症状が見られた場合は使用しないこと。

・中枢神経系の腫瘍が存在する場合。[播種の恐れがあるため。]

・中枢神経系の炎症（髄膜炎）、梅毒、神経炎などが存在する場合。[感染、感染悪化の恐れがあるため。]

・小児麻痺、側索硬化症などが存在する場合。[穿刺困難の恐れがあるため。]

◆212700 ナイロン糸

＜適用対象（患者）＞

・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

＜使用方法＞

・本品は非吸収性であるが、生体内では長期の分解が進み徐々に抗張力が低下するので、長期に抗張力を必要とする部位には使用しないこと。

◆214700 ガーゼ

・電気メス等を近づけないこと。[引火するおそれがある。]

◆215200 綿球

・体内に留置しないこと。

◆217100X 線ガーゼ

・X 線造影糸を直接挟んで使用しないこと。[切断又は抜け落ちて体内に残存するおそれがある。]

・電気メス等を近づけないこと。[引火するおそれがある。]

◆224200 天然ゴム製手術用手袋

・天然ゴムによるアナフィラキシー症状の既往歴がある医療関係者の使用及び患者への使用は禁止。

◆224201 天然ゴム製手術用手袋

・天然ゴムによるアナフィラキシー症状の既往歴がある医療関係者の使用及び患者への使用は禁止。

◆229600 外科用パッド

- ・裁断加工禁止
- ・体内に深く挿入し、埋め込み又は留置をしないこと。

◆230400 スカルペル

- ・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆230600 接続チューブ

- ・本品に使用されている素材に対し、アレルギー体質又はかぶれやすい患者には使用しないこと。

◆232700 眼科用パッド

- ・裁断加工禁止
- ・体内に深く挿入し、埋め込み又は留置をしないこと。

◆232900 ガーゼ

- ・体内に留置しないこと。

◆233100 ガーゼ

- ・体内に留置しないこと。

◆233200X 線ガーゼ

- ・体内に留置しないこと。
- ・X線造影糸部分をつかまないこと。
- ・ガーゼやX線造影糸に強い負荷がかからないように使用すること[X線造影糸を直接挟むと、切れたり、抜け落ちて体内に残存するおそれがあるため。]

◆233400 ガーゼ

- ・体内に留置しないこと。

◆233500 綿球

- ・体内に留置しないこと。

◆233600 綿球

- ・体内に留置しないこと。

◆234800 スカルペル

- ・本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

◆239100X 線ガーゼ

- ・体内に留置しないこと。
- ・X線造影糸部分をつかまないこと。
- ・ガーゼやX線造影材に強い負荷がかからないように使用すること。[X線造影糸を直接挟むと、切れたり、抜け落ちて体内に残存する恐れがあるため。]

◆239101X 線ガーゼ

- ・体内に留置しないこと。
- ・X線造影糸部分をつかまないこと。
- ・ガーゼやX線造影糸に強い負荷がかからないように使用すること。[X線造影糸を直接挟むと、切れたり、抜け落ちて体内に残存する恐れがあるため。]

◆251700 電気メスクリューナー

- ・コーティング等が施されているアクティブ電極に本品を使用すると、アクティブ電極の表面コーティングが剥がれるため使用禁止。
- ・先端部に銀チップがついたバイポーラピンセットに本品を使用すると、バイポーラピンセットの銀チップが剥がれるため使用禁止。

◆262800 フィルムドレッシング

- ・ヨウ素に過敏症のある患者には使用しないこと。[ヨウ素過敏症を発症する恐れがあるため。]

◆263800 スキンステッパー

- ・本品に感作又はアレルギーを示す患者に使用しないこと。

◆270400X 線ガーゼ

- ・体内に留置しないこと。
- ・X線造影材部分をつかまないこと。[X線造影材を直接挟むと、切れたり、抜け落ちて体内に残存するおそれがある。]
- ・ガーゼやX線造影材に強い負荷がかからないように使用すること。

◆270500X 線ガーゼ

- ・体内に留置しないこと。
- ・X線造影材部分をつかまないこと。[X線造影材を直接挟むと、切れたり、抜け落ちて体内に残存するおそれがある。]
- ・ガーゼやX線造影材に強い負荷がかからないように使用すること。

*◆270200 麻酔回路セット（未滅菌）

- ・本品の滅菌は行わないこと。[製品に変形及び破損の発生、有毒

ガスが残留する恐れがあるため。]

- *・可燃性の麻酔ガスの存在下では使用しないこと。[火災発生の恐れがあるため。]

- *・火気のある場所及び発火の恐れのあるものの近くでは酸素を使用しないこと。[火災発生の恐れがあるため。]

- *・フェノールやエーテルなどの有機溶媒やホルマリン系消毒剤は使用しないこと。[ひび割れ、壊裂発生の可能性があるため。]

*＜併用禁忌＞

- *・加温加湿器またはネブライザと併用しないこと。[併用すると流量抵抗の増大または閉塞により、換気が困難となる恐れがあるため。]

【形状・構造及び原理等】

＜形状・構造＞

- *・本品は、医療機関の求めに応じた構成品を組み合わせたものです。

＜原理＞

- ・本品を無菌的に開封し、構成品を配置することで、手術準備を効率化することができます。

ご使用前に各構成品の情報について、取扱説明書をご参照ください。

【使用目的又は効果】

＜使用目的＞

- ・本品は、腹腔鏡下手術に必要とされる基本的な構成品を組み合わせで電子線滅菌を施した、ディスプレイザブルのキット製品です。

＜効果＞

- ・鏡視下手術、処置等の材料準備を効率化することができます。
- ・本品は滅菌済みであるためそのまま直ちに使用できます。

【使用方法等】

- ・本品は、ディスプレイザブル製品ですので、1回限りの使用で使い捨て、再使用はしないでください。

①本品を開封します。

②含まれる構成品を、使用する施設の設備、手技、ルール等に応じて、適切な方法で展開してください。

③展開した構成品の種類、数量が、ラベル等に表示されている本品の構成内容と相違ないか確認してください。

④本品に含まれていない必要な材料等を準備してください。

⑤各構成品は、医師の判断のもと、実施する手術、手技の手順に沿って、各構成品の使用法、効果の範囲にて使用してください。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- *・麻酔回路セットは未滅菌品のため、構成品に含まれる場合はご注意ください。

・ご使用前にラベル（内容明細）を点検し、処置を行う上で不足している器材があれば、あらかじめ準備をしておいてください。

・個々の構成品については取扱説明書に記載している用途、用法の範囲内で使用してください。[患者に重篤な被害をもたらす恐れがあるため。]

・本品の構成品にトレー、容器等の成型品を含むものは、バリや割れ、欠け等の異常が見られた場合、使用しないでください。

・本品の構成品は、キット製品内の状態等により、ごく稀に変形が生じる場合があります。変形がある場合は使用しないでください。

・本品の構成品には、電子線滅菌により着色（黄変等）するものがありますが、性能、安全性に問題はありません。

・本品を落としたり、衝撃を与えると破損する恐れがありますので、取扱いに注意してください。

・開封後、使用しなかった構成品は廃棄し、再利用しないでください。

・再滅菌禁止

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

・本品を保管する際は、過度な圧力を掛ける、もしくは掛かる状態にて保管しないでください。構成品が潰れる等、破損する恐れがあります。

・構成品によっては、割れやすいものがありますので、取扱いには十分ご注意ください。

- ・高温、多湿、直射日光、水濡れを避けて、清潔な状態で保管してください。
 - ・蛍光灯、紫外線殺菌灯下やオゾンが発生する器械の周辺等に保管しないでください。
- <有効期間>
- ・有効期間はラベルに記載

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

<製造販売業者>

株式会社 ホギメディカル

**東京都港区赤坂 2-4-6 赤坂グリーンクロス

**お問合せ窓口：市販後管理課

TEL：03(6229)1300

0120(85)8120

FAX：03(6229)1350

**URL：https://www.hogy.co.jp

<製造業者>

株式会社 ホギメディカル